

# プロダクトデザインI

選 択

開講年次：2 年次前期

科目区分：講義＋演習

単 位：2 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：製品をデザインするために、HCD：Human Centered Design（人間中心設計プロセス）の考えに則り、生活者や市場の要求事項の把握・分析から具体的な製品のデザインプロセスを学び、的確な問題発見力、問題解決力、表現伝達力等の製品デザインの基本を理解することを狙いとする。

■**到達目標**：①プロダクトデザインに必要な基礎知識の習得  
②プロダクトデザインに必要な技術／背景の理解

■**担当教員**：

安齋 利典

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 オリエンテーション/プロダクトデザインとは、
- 第 2 回 デザインプロセスとHCD
- 第 3 回 視覚化の方法1 スケッチの基礎
- 第 4 回 視覚化の方法2 スケッチの応用/図面
- 第 5 回 調査・分析方法
- 第 6 回 コンセプトの策定
- 第 7 回 具体化の方法1
- 第 8 回 具体化の方法2
- 第 9 回 製品デザインと社会
- 第10回 製品デザインと企業
- 第11回 製品デザインと科学
- 第12回 製品デザインと技術
- 第13回 製品デザインとマーケティング
- 第14回 全体総括とまとめ
- 第15回 プレゼンテーションと評価

■**教科書**：なし

■**参考文献**：「プロダクトデザインー商品開発に関わる全ての人へー」／日本インダストリアルデザイナー協会編（株式会社ワークスコーポレーション）  
「誰のためのデザイン」／D. A.ノーマン、野島久雄訳（新曜社認知科学選書）  
「こんなデザインが使いやすさを生む」／三菱電機デザイン研究所編（工業調査会）

■**成績評価基準と方法**：2/3以上の出席（欠格条件）30%、毎回の授業内容をまとめたレポート（300文字程度）30%、授業態度20%、発表（学んだことのプレゼンテーション）20%

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験					
小テスト・授業内レポート	◎	◎		毎回の授業のレポート	30
授業態度	○	○			20
発表					20
作品					
出席	◎	◎		2/3以上の出席	30
その他					

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：デザイン総合実習1～3

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：企画から製品デザインの完成に至るデザインプロセスを理解していただきます。ユーザーの立場、組織（企業等）の立場に立ちながら、課題解決者としてのデザイナー製品デザインに対する考え方を養い、アイデアを実現するための道筋を理解することを目的とします。毎回の講義の最後のレポート等で理解を深めていただきます。